

なきごえ



1985

6

大阪市
天王寺動物園協会

北王英一



懐かしの天王寺動物園が開園70周年を迎えられたそう
で、おめでたい限りです。私が在職していたのは大正7年4月から12年5月までではや62年の昔になりました。弱冠23歳、

手に負えぬ遊び野郎で毎夜のように新世界、南新地を飲み廻りお茶屋のつけが払えないで、おふくろを泣かせたことだけは覚えています。ただひとつ取り柄は猛獣を馴らすことでした。また相手も私によく馴れてくれました。当時タケコ(猛子)と名づけた牝の虎がおりましてこれが格別に親しい仲でしたが、ある夏の日中、このタケコが日射病で運動場のまん中で卒倒したんです。さあ、手当てをしてやらねばなりません、いくら馴れているとはいえオリの中へ一緒に入ったことはありません。危いといって皆が止めるんですが捨てておく訳にはいきませんので鉄戸を開けて中へ入って行き、こわごわ近寄って、まず後肢のあたりをそっと触ってみますが抵抗の気配はありません。そこでしだいに胴から頸、頭となでていきますが、ぐったりとなったままです。そこで直ぐ氷嚢を頭と胸に当ててやり注射、日覆いと大急ぎで応急手当を済ませて外に出ました。もうだめかと見守っていたら夕方ごろから、むっくり起き上りました。やがてしだいに元気を取り戻して翌日はすっかり回復しました。それからというものタケコはすっかり私に打ちつけて親愛の情を態度で示します。私がオリの前に近づくたびに岩の上に寝ていても、むっくり起き上がって鉄柵の所へ走ってきて、鉄格子に体をすりつけて呼びます。そばへ来て触ってくれ

というんです。そこで鉄格子の間から手を入れて、体中をなでてやると鼻を鳴らせて喜びます。しまいには、ごろりと仰向けになってじゃれてきます。こうなると全く可愛いものです。そのころ名古屋市動物園長岩田氏が林園長を訪ねてやって来られた。私を名古屋ヘスカウトするためです。林園長に呼ばれて岩田氏を紹介されて、何も知らないままに「園内を御案内してあげてください」と命ぜられたので、岩田さんを案内して例のタケコの前まで来たときです。むっくりと起き上ったタケコが、いつものように鉄格子に体をすりつけて、鼻を鳴らせてじゃれるさも親し気な情景を見ていた岩田さんがウーンと感に耐えぬようすでした。名古屋へ帰られた後に、林園長宛に手紙が来て懇切に私を所望されたんです。林園長からこの話を聞いたとき、直ちに断りました。何しろ当時から天王寺動物園といえば東京上野動物園に次ぐ大動物園です。何を好んで名も知らぬ名古屋市鶴舞公園附属動物園へ行きましようやというわけです。ところが岩田さんは諦めません。再三懇切な手紙を私にも寄せられ「自分は近く園長を退職することになっているからその後任のつもりで、市長ともよく相談したが給料も課長なみの待遇をするから、名古屋の動物園を立派に盛育てる意気込みで、ひとつ考え直してもらえないか」と辞を低くしての懇望です。その熱意に感激して遂に名古屋行を決心したので。大正12年5月、東海道線に揺られて住みなれた大阪を後にしました。なんだか自賛めいてキザになりましたが、こんな話は60余年たった今、初めて述べる真実です。そして私と入れ替りに寺内さんが来られて二代目天王寺動物園長になられたしだいで寺内さんとは同期の学友です。

天王寺動物園は私にとって、何から何まで、懐かしい思い出でいっぱいです。今後益々発展充実されることを心から祈ってやみません。

写真説明：大正9年9月28日、ヒョウの診察をする筆者 (元名古屋市東山動物園長)

なきごえ6月号もくじ

動物と私 2
“セイランのヒナ誕生” 3
動物園グラフ・動物園日記 4・5
アカカンガルーの社会行動 6・7
屋久島の動物たち 8・9
キーパーズ・アイ ③④ 10
第11回サマースクール開講のお知らせ 10
動物園ニュース 11

表紙の写真説明

ショウジョウトキ (*Eudocimus guara*)
南米に生息する美しいトキで、集団で樹上に営巣します。当園では5羽が飼育されており、繁殖もしています。繁殖期になると、朱色がいつそう彩かになります。

(撮影：農本武志)



“セイランのヒナ誕生！”

セイランが4月4日と4月6日に産卵し、共に4月9日にふ卵器にいれました。25日目の5月4日に無事ふ化に成功しましたが、これは天王寺動物園では12年ぶりの誕生で喜びもひとしおです。

(撮影：榊原安昭)

動物園グラフ

アカカンガルーは、コアラと共にオーストラリアを代表する動物です。袋の中で子供を育てる事で有名ですが、しかし、その行動はあまり知られていません。今回はアカカンガルーのおもしろい行動にズーム・インしてみました。

(写真構成：農本 武志)



これがぼくらの生活ぶりだよ



ネーねてばかりいないで少しは運動しなさいよ!



カンガルーはカンガルーの下にカンガルーを造らず……?カンガルーのオスはとてもガマン強いのです!



動物の子供はあそび好き、お母さんを相手にボクシングのケイコ。

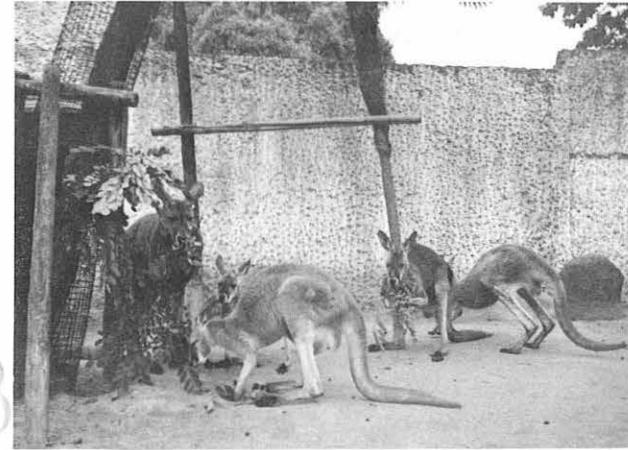


エキサイトしすぎると、仲間が“もうよしなさい”

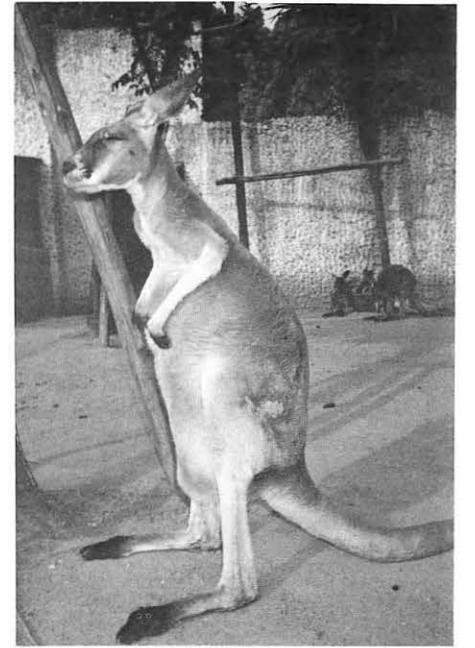
4・5月の動物園日記

- 4 / 10. 当園の開園70周年を記念して、インドコジャコウネコおよびアオカケイが各々1番いづつ、上海動物園より贈られてきました。護送班として、上海動物園副園長・顧金根氏ほか2名が一緒に来園されました。
- 4 / 11. フンボルトペンギンが1羽ふ化しました。上海動物園との技術交流が行なわれました。
- 4 / 12. レクチャールームにて、上海動物園からの動物贈呈式が催されました。
- 4 / 14. ボランティアによるスポットガイドが行なわれました。

- 4 / 15. キーウイとハリモグラの体重測定を行いました。
- 4 / 16. ココノオビアルマジロが4頭(すべてオス)生まれました。
- 4 / 17. オオオオハシが3羽入園しました。アルマジロの子の体重測定を行いました。108~110gありました。
- 4 / 18. 釣針を間違って飲み込んだウミネコを1羽保護し、治療を行ないました。
- 4 / 19. マントヒビの出産が近いようです。ヒオドシジュケイの雄が静岡市立日本平動物園より贈られてきました。
- 4 / 20. ココノオビアルマジロの子は4頭とも元気



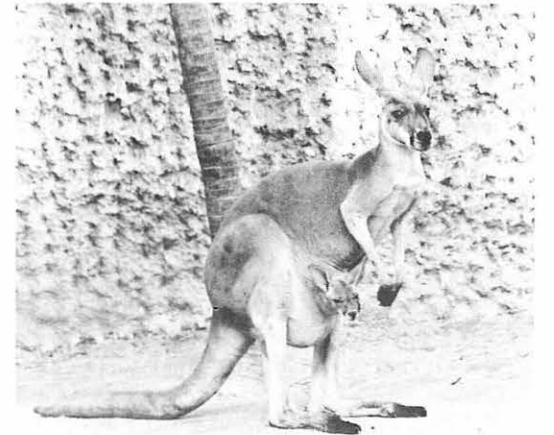
あっアカシアの葉だ!みんなで仲良くムシャムシャ。



カンガルーの仲間も牛さんのように反すう(かみもどし)するんだよ。



寝室には、飼育係のおじさんが作ってくれたごちそうがいっぱいだ。



ハイ!こんにちは、お袋さんの愛情でこんなに大きくなりました。

- 4 / 21. ペルシャ湾で保護されたチョウゲンボウの仲間を1羽、保護しました。ハイイロコクジャクが1羽ふ化しました。
- 4 / 22. ココノオビアルマジロの子の体重測定を行ないました。
- 4 / 23. アオサギのふ化を確認しました。
- 4 / 26. 中国ハルビン市動物園より獣医院長・陳氏ほか3名の方が来園・見学されました。
- 4 / 28. 春の動物園まつりが開幕しました。
- 4 / 29. インドオオコウモリが1頭生まれました。ニホンザルが1頭生まれました。

- 4 / 30. オウサマペンギンが産卵しました。
- 5 / 1. 4月29日生まれのニホンザルが急死しました。
- 5 / 2. コンドルは今まで順調に抱卵を続けていましたが、破卵し、ふ化の望みが消えました。
- 5 / 4. マントヒビが1頭生まれました。
- 5 / 6. 春の動物園まつりは本日で閉幕しました。
- 5 / 7. タスマニアデビルの“ミミ”の袋の中に、まだ毛もはえず、眼も開いていない子供を2~3頭確認しました。
- 5 / 8. ココノオビアルマジロの子は、結局3頭死亡し、1頭のみになりました。
- 5 / 10. ブラックバックが1頭生まれました。

アカカンガルーの社会行動

— 天王寺動物園におけるアカカンガルーの群の行動調査 —

§はじめに

動物園で飼育されている動物達は、自然環境とはまったく異なった環境の中で暮らしていますが、しかし、彼らの行動を注意深く観察してみると、野生下で、調査された行動と同じ事が動物園で飼育されている動物達にもみられます。特に群を構成する動物の場合、社会構造の成り立ちや群の中の順位、個体間における行動など興味深い行動が観察できます。



カンガルー舎

今回はアカカンガルーの群の社会行動について、1983年（昭和58年）の8月から現在までに観察した行動について紹介しましょう。

§野生のアカカンガルーの行動

アカカンガルー *Macropus rufus* は、オーストラリアに生息する有袋目を代表する動物で、日本の動物園においてもポピュラーな存在です。野生下のアカカンガルーは、2～3頭のオスと数頭のメスとそして子供達の10頭位の群で構成されていますが、時にはそれ以上の大きな群を構成する事もあります。（これらカンガルーの群は *mobs* と呼ばれています）主として夜行性で日中の気温が高い時は木陰で休息し、気温が下がる日没後から早朝にかけて活動しま

す。群の中には、リーダーは存在せず、又、オスの順位などもないとされていますが、詳しい行動は分かっていないようです。

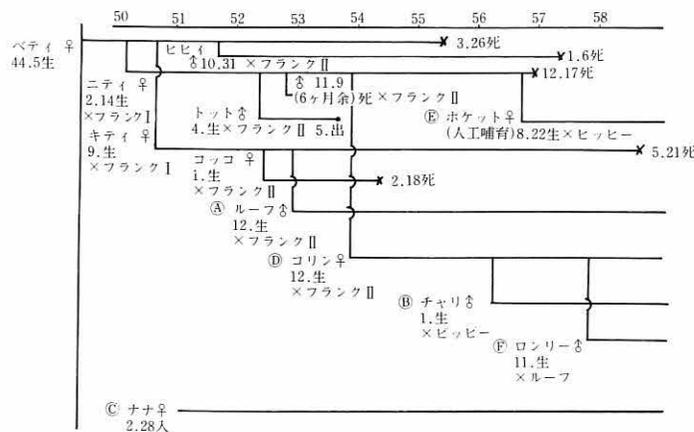
§当園のアカカンガルーの行動調査

まず当園のアカカンガルーの行動調査を行うために、個体識別・個体間の行動などの予備調査を実施しました。調査開始当時のアカカンガルーの群は、オスのルーフ、チャリ、ロンリーとメスのナナ、コリン、ポケットの6頭からなっており、個体識別は顔の特徴で識別し、調査用紙に、個体の位置、調査項目などを記入しました。彼らの1日の行動パターンは、朝と昼の採食及び夕方からの行動を除けばほとんど休息しているといったぐあいです。入園者の方が見られる時間帯は、休息していることが多く、カンガルーは寝てばかりでおもしろくないと思われがちですが、閉園時間を過ぎる頃になると、にわかに行動を開始します。ここでアカカンガルーの行動でよく見られるものについてまとめてみますと、①袋のぞき……この行動は、メスの個体に多く見られる行動ですが、オスの個体もメスの袋（育児のう）の中に鼻ずらを突込んでおいをかいだりします。②グルーミング（毛づくろい）……本来グルーミングは、英語のウマの手入れをするという意味でしたが、サル

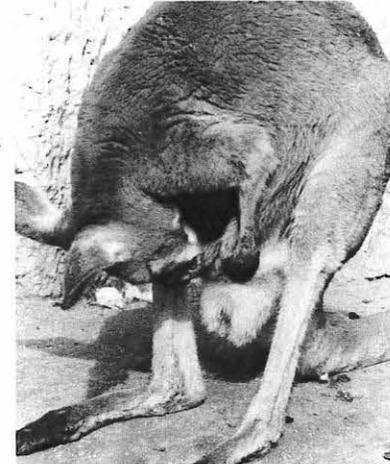
表1 調査対象個体

No.1	♂	ルーフ	昭和52年12月生
No.2	♂	チャリ	昭和56年1月生
No.3	♀	ナナ	昭和51年2月入園
No.4	♀	コリン	昭和53年12月生
No.5	♀	ポケット	昭和56年8月生（人工）
No.6	♂	ロンリー	昭和57年11月生

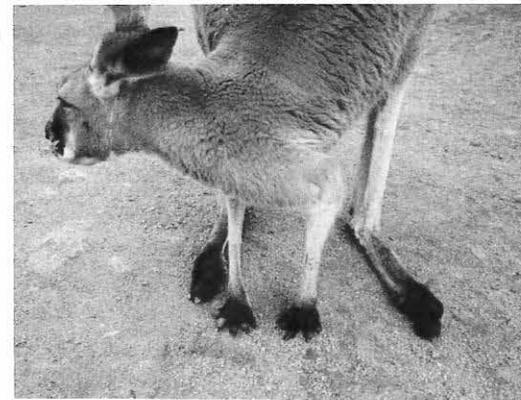
表2 アカカンガルー系統図



て、このグルーミング、群の中の順位の確立に大きな役割を持っているという事で、このことばが使われるようになりました。アカカンガルーの場合はサルの社会などで見られるような順位の確立といった意味はなく、むしろ親愛の情を表わすといった、スキニッ的な役割を果たしていると思われます。このグルーミングは、オスとオスの間、メスとメスの間、そしてオスとメスの間でも行われ、特定の個体に行うという事はありませんでした。



③においかぎ……この行動も、グルーミング同様、群の中での相手の確認、あいさつ行動など、群の中の均衡を保つ役割があるようで、性別に関係なく見られる行動です。特によくおいをかぐ所は、相手の総排泄腔ですが、排尿や排便をしている個体に別の個体がおいをかぎにいく事が多く、メスが発情している場合には、オスの個体が側に寄っていきメスの尿をかぎ、そしてメスの後肢をひっかけて、マウントしかかります。しかしメスが嫌うとその後を追いかけ交尾にまでいたる事が多く見られました。④砂かき行動……この行動はアカカンガルーだけに見られる行動で、アカカンガルーのとなりで飼育しているハイロカンガルーには見られません。場所を移動して横座りする



場合に限って、前肢で放飼場の地面をかきそしてその場所に座るのです。この行動は全個体に見られますが、特にオスの場合念入りに地面をかいたため、アカ

カンガルー舎の放飼場には凹凸が各所にできます。当初この行動が何を意味するものか分かりませんでした。どうもマーキング（においづけ行動）の役割を果たしているようです。マーキングは、なわばりを持つ動物に多く見られる行動ですが、アカカンガルーの場合、なわばり的な意味はなく、この場所が気に入ったから、ここは私の居場所だよといった感じを受けます。砂かき行動をしている個体がある場所に座り込むと、他の個体がいくらその場所に座りたくても、座り込んでいる個体に遠慮して他の場所を探します。しかしその場所が個体別に決まってしまうという事はなく、要は早い者勝ちといったところです。以上のように平常は、のんびりとしたアカカンガルーの群ですが、メスが発情すると、そのメスをめぐってのオス同士の激しい闘争が見られます。野生のアカカンガルーは決まった繁殖期はなく、一年を通じて繁殖しますが、地域によって乾期に交尾し雨期に出産すると報告されています。そしてメスの発情周期は34日位です。当園での繁殖行動の観察では、個体により少し差がありますが、30日位の周期で発情をくり返す事が確認できました。メスが発情すると、オスのルーフとチャリの間に闘争が起こり、後肢でキックの応酬をしますが、結果はいつもルーフの圧勝に終わり、負けたチャリはルーフに追われ、ルーフの視界から見えない所でビクビクしています。そして交尾が終われば群が平静にもどると、ルーフとチャリの間はいつものようにもどります。出産は調査開始から現在までに5例ありましたが、人工哺育で育てられたメスのポケットの場合、自由に育児のうをさわる事ができ、交尾後から出産するまで注意深く観察した結果、32日目に仔が育児のうの中にあるのが確認できました。又、交尾後のメスが、平常よりも頻りに袋のぞきする事も観察できました。

§おわりに

アカカンガルーの群の社会構造は、サル社会などに見られるような順位制などは見られず、ラフな群を形成するようです。しかし、メスが発情した時に、メスをめぐって、オス同士の闘争があり、その結果順位ができます。しかし、この闘争で生じた順位は、ボスのものではなく、メスの発情が終わると元の状態になります。個体間においても順位はなく、餌をめぐっての争いもなく、とても平和的な群を形成しているといえます。アカカンガルーの行動調査を開始してからまもなく2年になりますが、調査対象の頭数や、調査時間の不足などでまだまだ詳しいデータとはなっていませんが、今後もさらに観察を続けていきたいと思っています。最後に予備調査に協力してくれたO・Z・V（大阪動物園ボランティアーズ）の有志の方々に心より感謝します。

（飼育課：農本 武志）

屋久島の動物たち

立澤 史郎

この春、屋久島を訪れる機会を得ました。ヤクシカ調査の下見（の下見）のためですが、日本各地の例に違わず、野生動物と人間生活との間に生じるいくつかの問題も見聞きました。屋久杉、原生林ではよく知られても、そこに生息する動物についての報告はあまりありませんので、役不足ではありますが、その一部を紹介させていただきます。

洋上アルプス

東経130°北緯30°、九州本土から南へ約70kmの洋上に浮かび、周囲約105kmの五角形。九州最高峰の宮之浦岳(1935m)を始め1500m級の峰だけで30以上がひしめく山岳島…このような情報をいくら仕入れたところで、その威容を目の前にしては言葉を失ってしまいます。まさに地形は海中に半ば没したアルプスそのものですが、しかし気候は当然異なります。黒潮に洗われる結果、沿岸部では年平均21℃、“月に35日雨が降る”と言われる降水量は年約3800mmと温暖多雨で、しかも山岳部になると7000から年により10000mmと驚異的な降水量を記録するそうです。登山者にとってはこれがくせ者で、年平均で沿岸部より5~10℃も気温の低い山岳部では、思わぬ濃霧や吹雪に阻まれるわけです。



ヤクザル—離れオスらしい

者にとってはこれがくせ者で、年平均で沿岸部より5~10℃も気温の低い山岳部では、思わぬ濃霧や吹雪に阻まれるわけです。

貧弱な哺乳動物相

さて、このように変化に富んだ地形と気候の下では、生育する生物相もまた多様です。亜熱帯から亜寒帯までの植生が見事に移行してゆく垂直分布は世界的に知られ、樹齢千年を超える屋久杉を擁する原生林はあまりに有名です。この多様な植物相に対応して昆虫相や鳥相の複雑さも報告されています。

ところが哺乳類となるとこれが貧弱で、生物地理上同じ動物区（旧北区）の中でも特に関係の深い九州本土と比較するとよくわかります。（表）中でも、

中・大型哺乳類の欠落が著しいわけですが、これは種子島や口永良部島など同じ薩南群島の島々についても同様で、島嶼現象の一側面一島という狭い地域に分断されるために絶滅等で生物の種類が減少した一として解釈されています。しかし、例えば種子島では現在いないサル、タヌキが実は戦後になって絶滅したらしいという報告（東1985）からも示唆されるように、ある種の絶滅には一つまり現在の哺乳動物



ホンDOIタチ(矢印)—山小屋のゴミを狙って

物相の形成過程には一やはり人間の活動が大きく関わってきているのでしょう。

ヤクシカ

また、島嶼化の他の側面として、固有（亜）種が多いこともあげられます。特に私が興味を持ったのが、口永良部・屋久・馬毛・種子とわずか十数kmの間隔で列をなす薩南群島の四つの島に、各々形態を異にするニホンジカが生息しているという情報です。ところがそれらの内、亜種として報告されているのはヤクシカ (*Cervus nippon yakushimae*) とマゲシカ (*C. n. mageshimae*) の二つ（黒田・岡田1950）だけで、残り二島のシカについてはまだ形態の比較もされず、現地でさえ呼び名もついていません。生態に至ってはヤクシカでわずかに調査が行われているだけです。

そしてこのヤクシカが私を屋久島へと導いたわけですが、おもしろいのは、形態面よりむしろ社会構造においてホンシュウジカと異なる可能性が若干でできたことです。現地での目撃や聞き込みの結果から判断すると、本州では雌雄別にグループを形成して生活すると言われる晩冬期に、屋久島の少なくとも山岳部では、単独又は仔と二頭で行動している雌がかなり多いようなのです。もちろん想像の域を出ませんが、これがヤクシカの一般的な生活様式であるとなれば、ホンシュウジカよりむしろニホンカモシカを連想させるものです。形態だけでなく、生態・社会

の面からヤクシカとその生息環境の独自性を探ってみるのも重要です。おもしろい仮説を立ててみてください。

生活の場

さてこの種の調査は、数年以上かけねばある程度の結果を得られないことが多く、その分しっかりした計画を立てねばと頭を抱えるわけですが、心配は別の所にもあります。

「シカ三万、サル三万、ヒト三万。」かつて島の人々が動物たちへの親しみをこめて島をこう呼んだと言います。ところが現在は「シカ三千、サル三千、ヒト一万。」シカやサルは減少し、一方で山に入る人も減っています。

島津藩の統治に始まり、国有林化に続く無計画な施業、本土企業の進出と、この百数十年、島の歴史は屋久杉の伐採と共にあり、それは本土による搾取の歴史



ヤクシマヒメネズミ—食パンにアタック

でした。そして今、屋久杉や広葉樹の原生林は、原生自然環境保全地域として守らねばならない程に

縮小し、ヤクシカも過去10年間の禁猟にも拘らず減少を続け、昨年度から更に10年間の延長措置がとられています。そして禁猟措置開始に前後して問題とされたのが、苗木への食害です。これは、ヤクザルについても栽培果実の被害が問題となっており、どちらも効果的な防除策が見つからぬままここ10年来、「駆除」が続けられています。ところがこの駆除頭数が問題で、必ずしも科学的に算出されているとは言えず、例えばヤクシカでは、これに密猟分（店頭に出ることさえある）を加えると、5%内外と言われる個体数の年間増加分が軽く取り除かれていると思われる。ヤクシカが禁猟に拘らず増えていないとすれば、狩猟圧がその要因の一つと言えるでしょう。つまり、ただ狩猟を否定するのではなく、食害問題の実態と機構を解明し打開策を講じねばなりません。

現在、これら様々な問題を含めて、「自然保護と人間生活の調和」に正面から取り組もうとする研究プロジェクトも始まっています。環境保全に関する法規制の可能性の議論も活発になりつつあります。

しかし、大学の研究や法によって守られるだけではなく、地元の人々がそこで生活しつつ自然が守られてゆくような条件を、その自然を享受する私たちが作り出してゆくことこそ大切なのだと思われます。

線で区切った保護ではなく、共に生きていけるような方策・考え方がないものか。そう思いつつ本番の調査計画を立てはじめたところです。

（大阪教育大学院生・かもしかの会）

表 屋久島の哺乳動物相（大塚ら、1981 今泉・岡田、1960 丸ら作製：動物名は亜種レベルで表す）

分類(陸生のみ)	現生種 (下線は屋久島固有、破線は屋久島・種子島に固有の亜種を示す)	九州本土に現生し、屋久島には現生しない種 (移入種を除く)
食虫目	ヤクシマジネズミ、ヤクシマモグラ	キュウシュウヒミズ、キュウシュウモグラ
翼手目	ニホンキクガシラコウモリ、ニホンコキクガシラコウモリ、アブラコウモリ、ニホンコテングコウモリ	キュウシュウノレンコウモリ 他5種 (但し、調査不十分)
霊長目	ヤクザル	なし
兔目	なし	キュウシュウノウサギ
齧歯目	ホンドアカネズミ 及び [※] セグロアカネズミ、ヤクシマヒメネズミ、タネハツカネズミ、ニホンクマネズミ、ニホンドブネズミ	ニホンリス、ホンシュウモモンガ、キュウシュウムササビ、ヤマネ、ホンダハタネズミ 他2種
食肉目	ホンDOIタチ 及び [※] コイタチ	ホンDOTヌキ、ホンDKツネ、ホンDTン、ニホンアナグマ、ニホンツキノワグマ
偶蹄目	ヤクシカ	ニホンカモシカ、ニホンイノシシ

※：亜種関係を示す。

新入登場

去る5月13日に、ケナガイタチ(フェレット)が2ペア小獣舎に入居しました。イタチだから動作も機敏であり人に慣れないのではと思っていましたが、その心配は全くありませんでした。このケナガイタチは最近では、ペットで飼われていることもあり、たいへん人なつこいイタチなのです。当初「人に慣れているから」と聞かされていても、不安でなかなか触れることができませんでした。

ある日、そっとさわってみると、体をあお向けにして気持ちよさそうにしてじっと動こうとしません。まるでペットで飼っている動物と同じです。顔も丸く、とても愛きょうのある顔をしていて、走る姿も、なんとも言えないかわいさです。餌をやりに行くと、それまで運動場の木の穴で寝ていたのにもかかわらず、私が室内に入ると同時に4頭とも起き出します。そして扉の所で私が来るのを1列に並んで今か今かというぐあい待っています。とてもかわいい動物ですが、交尾の時はさすがに荒々しく、メスの首を強く咬み、長時間激しい交尾をします。お客さんがよく、「ケンカして咬まれてるから助けてあげて」と言ってきます。

昼間は、ほとんど木の穴の中に入っていて、見られない事もありますが、餌をやりに行った時はもちろん、それ以外でも動きまわっている時がありますので、一度ぜひ見学にお越し下さい。きっと顔がほころぶでしょう。



(飼育課: 松下 達夫)
(イラスト: 藪野 幸司)



日米カケス合戦

北園の小鳥の家の屋内展示室の一室に、日本産のカケスとアメリカ大陸の中南部に生息するミドリカケスが収容されています。両者ともカラス科に属する知恵者同士ですが、ケージ中での力関係は、ミドリカケスの方が強いようです。カケスは餌を食べる時も、ミドリカケスの様子を見ながらすばやく餌を食べるのですが、ミドリカケスが側にくるとすばやく逃げてしまいます。しかし、このカケスは人慣れしているためか、入園者の人気を集め、網ごしにポップコーンやビスケットなどのさし入れをもらっているのですが、食べきれなくなると止まり木のすき間や、餌箱の下などにかくしてしまいます。しかしこの光景をしっかりと見ているミドリカケスは、ちゃっかりと失敬してしまいます。ところがある日の事、ミドリカケスに負けっぱなしのカケスが、みごとな知恵でミドリカケスの略奪を防いだのです。その方法は、もらったポップコーンをかくしたふりをして、実は口の中に入れておき、ミドリカケスがある場所に行ったときに、別の場所にかくしたのです。さすが日本のカケス君、いつまでもアメリカのカケスに負けてはいなかったのです。ところで、お菓子のさし入れは動物の健康をそこないますので、やめていただきたいものです。

(飼育課: 農本 武志)
(イラスト: 藪野 幸司)

第11回天王寺動物園サマースクールのお知らせ

夏休みの子供たちのために動物園で動物の観察や飼育係の仕事を見学し動物の勉強をします。対象は小学生(4・5・6年)のみです。次のつごうのよい組を1つえらんで下さい。

- 日時 第1組 7月21・22日
- 第2組 7月24・25日
- 第3組 7月27・28日
- 第4組 7月30・31日

参加資格: 小学校4・5・6年生、保護者の同意があつて動物園まで毎日通える者、定員は各組70名。

申し込み: 6月30日までに、往復ハガキで往信ハガキに①サマースクール第○組に参加希望、②住所・電

話番号、③氏名、年齢、性別、④学校名、学年、⑤保護者氏名を記入し、返信用ハガキのおもてに自分の住所・氏名を記入。ハガキは1通のみ記入。

申し込み先: 〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-1-74 大阪市天王寺動物園

参加者決定: 7月1日に抽選し、結果を連絡します。

参加経費: 1人1,000円(テキスト・参加章・写真・修了証などの費用)

その他: 保護者の参加はできません。送迎だけにして下さい。もし本人が参加できなくなったときは、連絡して下さい。

動物園ニュース

§ コノオビアルマジロのおめでた

1月15日に開館した夜行性動物舎で、おめでたが相次いでいます。第1号は、ココノオビアルマジロで、4月16日に生まれました。ココノオビアルマジロは1卵性の4ツ子を生むことで知られており、今回の出産も4頭ですべてオスでした。残念ながら、3頭は次々死亡してしまいましたが、残る1頭は順調に成育しています。出生時100gぐらいいであった体重も1ヶ月で5倍以上になりました。



また、インドオオコウモリが4月29日に出産しました。小さな子供は、母親の体に抱きついており、母親は大きな翼で子供を包むようにして大事に育てています。

§ マントヒヒの出産

マントヒヒのメスの赤ちゃんが、5月4日生まれました。昨年10月5日に続く出産です。昨年の場合生後9日目にオス親が子供を取りあげたため人工哺育に切り替えざるをえませんでした。今回は5月19日(生後15日)現在、母親が順調に育てています。子供はかなり大きくなり、時々母親から少し離れていることもありますが、今のところオス親も関心は示していないようです。なんとかこのまま無事に育ててほしいものです。



§ タスマニアデビルの赤ちゃん

タスマニアデビルの交尾が1月と2月に確認されたことを先月号でお知らせしましたが、出産予定日以後、ビデオテープによる夜間観察などを続けてきました。しかし出産の確認がつかめなため、5月7日に捕獲し育児のうの中を検査しました。

“ミミ”は出産予定日以後、2ヶ月以上たつていましたので育児のうの中に複数の赤ちゃんがいることが確認できましたが、“ミミ”より1ヶ月遅く交尾した“スー”のほうは子供を確認できませんでした。このまま順調に成育すれば、“ミミ”の赤ちゃんは7月頃には袋から出てくることでしょう。

現在の飼育動物数

(1985年4月30日現在)

哺乳類	13目	112種	428点
鳥類	18目	178種	533点
爬虫類	3目	31種	60点
計	34目	321種	1,021点

§ キジ類のふ化

4月のハイロコクジャクの自然ふ化に続いて、キジ舎では、昨年同様ミヤマハッカクが5月3日から抱卵しており、ゴジュケイ、シマハッカクも自然抱卵しています。この「なきごえ」が発行される頃にはかわいいひなをつれた姿をご覧ください。



人工ふ化のほうは、セイランが2羽5月4日にふ化し、ニジキジも5月15日に2羽ふ化しています。セイランは1973年以来12年ぶり、ニジキジは1978年以来7年ぶりのふ化です。また、5月12日にはアカヤマドリも3羽ふ化しています。

人工ふ化したセイランのひな

12年ぶり、ニジキジは1978年以来7年ぶりのふ化です。また、5月12日にはアカヤマドリも3羽ふ化しています。

§ 新着動物

4月17日、オオオオハシ3羽が入園しました。オオオオハシは南アメリカに生息する鳥で、胸が白く大きくくちばしが特徴です。



また、4月19日には、静岡市の日本平動物園のご好意で、ヒオドシジュケイのオスをお譲りいただきました。

オオオオハシ 検疫終了後、22日から従来より飼育していたメスと

いっしょにし、キジ舎で展示しています。来園したオスは日本平動物園で、昨年の5月12日にふ化したものですので、今年のひな誕生は無理かもしれませんが、来年以降は期待できそうです。



ヒオドシジュケイ

* 休園日のお知らせ *

動物園の休園日は毎月第3月曜日です。8月までの休園日は下記のとおりです。

6月17日(月)、7月15日(月)、8月19日(月)

開園時間は午前9時30分から午後5時までで、午後4時に切符売止めになります。

すてき満喫 近鉄クレジットカード



- 全国の近鉄百貨店グループ・都ホテチェーンなどでワイドにお使いいただけます。
- カードをご提示いただだけで30万円までのお買物をお楽しみいただけます。
- 繰り延べ払い(リボルビング方式)・一回払い・ボーナス一括払いの3つのお支払い方法がございます。
- 入会資格は20歳以上で2年以上お勤め、または自営の方です。

近鉄百貨店 お申込み・お問合せは各店クレジットセンター
アベノ店・上本町店・東大阪店・奈良店・西京都店・東京店

近鉄百貨店グループ

四日市近鉄・京都近鉄・岐阜近鉄・枚方近鉄・和歌山近鉄・近鉄松下(徳山)・別府近鉄・三交百貨店(松阪・伊勢)・近鉄東海ストア

ひかりのくに
監修・阪口浩平
指導・宮武頼夫

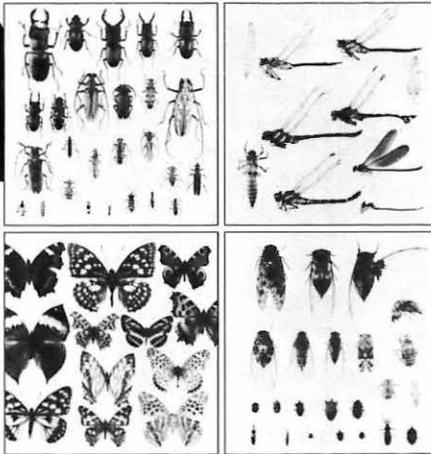
オールカラー

むし くらしとかいかた

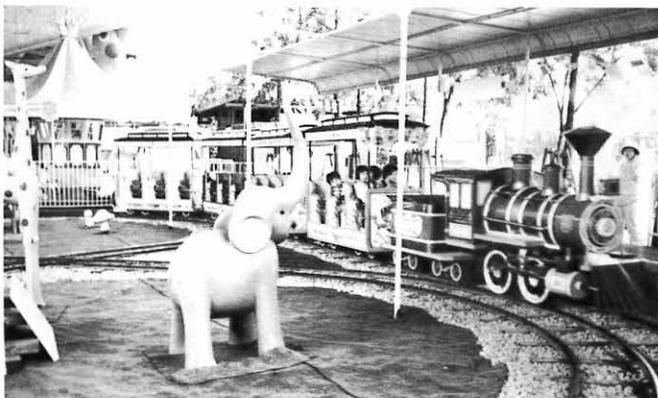
今まで、気にもとめなかつた自然の中で昆虫たちが生きている。みんなも、虫になって自然の中を歩いてみよう。きっとすはらしいことに出会えるはずだ。



B5変形 84ページ 580円
ひかりのくに株式会社
〒543 大阪市天王寺区上本町3-2



たのしいのりもの、が待っています。



1人1回
100円
(1才まで無料)
団体割引
(30人以上)
……1割引

久竹娛樂株式会社
TEL (06) 541-3112

◎園内3ヵ所(南園入口横、北園ステージ横、北園高架下)に各種のりものがあります。

天王寺動物園の機関紙

月刊 『なきごえ』

ご購入をお奨めします。
年間購読料 1,100円 (含、郵送料)

お申し込みは、**大阪市天王寺動物園協会**へ
TEL 06-771-0201

世界初の最高感度 (カラープリント用フィルム) 1600 新登場!

カメラの大林

桜橋本店 ☎341-8091
三番街店 ☎372-5031



フジカラー HR1600

ISO1600/33° 135-24枚撮

天王寺動物園 ZOO GUIDE の

ご購入をおすすめします
(1冊 ¥450)
園内各売店にあります

あらゆる動物に愛の手を!

社団法人 大阪動物愛護会

動物文学会主宰 平岩米吉著

新刊

猫の歴史と奇話

(定価・2600円)
A5判・260頁
口絵挿画・113図

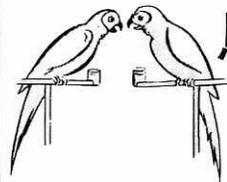
猫に関する古今東西の科学と文献を網羅し、しかも平易な文章で綴った猫の宝典。著者の三十余年にわたる収集研鑽の成果、ここに結実。

☆学術書でありながら、推理もののように愉しく読める猫の本
☆架空の伝説は別に、猫の珍しい実話400余を収載

主な目次

- | | |
|-------------------------------------|---------------------------------------|
| 第一章 猫の歴史
欧州は古代エジプト、日本は宇多天皇から近世まで | 第二章 猫股伝説
老猫化けてさまざまな怪異をなす |
| 第三章 猫の報恩談
蛇を咬んだり、金を運んだりする | 第四章 野性猫の存在
裏日本の山猫、離島の山猫、鬱陵島の猫の渡来など |
| 第五章 猫の奇話(上)
長命、多産、三毛猫などの形態の奇話 | 第六章 猫の奇話(中)
長距離の帰家記録や鼠を育てるなど不思議な行動 |
| 第七章 猫の奇話(下)
マタタビを媚薬とする奇妙な習性など | 第八章 益獣としての猫
あらゆる角度から猫の生態と効用を探究 |

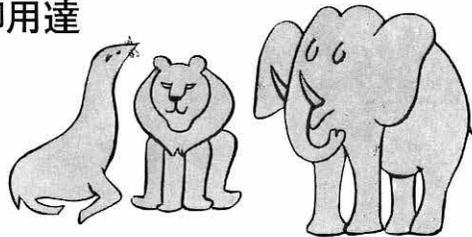
発行 動物文学会 〒152/東京都目黒区自由が丘3-12-2 電話(03)717-1659・振替東京5-9800
発売 (株)池田書店 東京都新宿区弁天町43番地 振替・東京4-165425



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

- ・医学実験用動物
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券250円



有限会社 吉川商会

本社 神戸市中央区中山手通3丁目11番4号 電話(078)221-8195(代)
飼育場 兵庫県小野市来住町1513番地

たのしい動物のお話は、
ガイドマシン(動物説明機)で、どうぞ!!



園内、主要動物舎
30数ヵ所にあります

関西特機株式会社
電話 06-762-2333
1回 20円

動物園内での お食事、ご休憩は

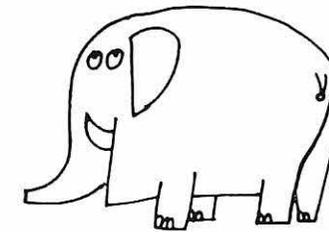
大阪市 天王寺動物園内

中央売店

☎ (06) 771-0973



天王寺動物園内



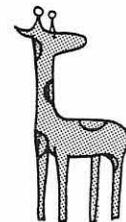
南園売店

代表者 松谷良子

大阪市天王寺区茶臼山町6-74
電話 (06) 771-7110番

園内での写真は...

動物園協会指定写真部へご用命下さい!!



◎随時係員が待機して
おりますので説明
に伺いました際は、
よろしくお願い致し
ます。

カラー写真 キャビネ1枚 500円

撮影無料にてキャビネ1枚をサービスさせていただきます。
撮影予約も受付しておりますのでご連絡下さい。

国際航空写真株式会社
TEL 06-856-7444

新鮮です、さわやかです。フルーツが入った、おしゃれなヨーグルト。



果肉とソフトヨーグルト
の名コンビ

自然の
おいしさ



雪印ヨーグル

●ブルーベリー・キウイフルーツ・ストロベリー・オレンジ・カクテル

夜行性動物舎完成記念

キーウィの
ぬいぐるみ

新発売

1コ 2,300円

協会で……!



なきごえ 昭和60年6月10日発行（毎月1回10日発行）第21巻 第6号 （通巻238号）

編集 / 大阪市天王寺動物園

発行人 / 大阪市天王寺動物園協会 中川道朗

印刷所 / 株式会社 松村善進堂 定価 100円(送料共)

〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74

電話 大阪 (06) 771-0201

振替口座 大阪 37823

1年継続 (12部) 1,100円 (送料共)

編集委員

（土井 良彦・伊藤 重朗・小出 雅三・樽本 勲・中川 哲男・前田 豊彦・宮下 実）
（長瀬健二郎・榊原 安昭・森本 委利・大野 尊信・葭谷 文彦・農本 武志・野口 秀高）
（仲谷 登・柴田 総・藪野 幸司・堀 弘・大川 光雄）